



# 生物多様性センター企画展 「淀川の淡水魚」

おおさか環農水研生物多様性センターでは、日本で有数の淡水魚類相を誇る淀川において、1970年代から魚類調査を行っています。

在来種の減少や外来種の増加など、生息状況の変化が分かってきました。

本企画展では、淀川に生息する魚類の生体・標本を多数展示するとともに、その生態や生息状況の変遷などを伝えします。また、減少した在来種を守るための取組をご紹介します。

## 淀川の特徴

- 淀川は約70種類の淡水魚が生息しており、日本で有数の淡水魚類相を誇ります。
- 日本最古の湖・琵琶湖を水源としていて、広大な氾濫原により氾濫原を好む魚類が多く生息していたことから、琵琶湖・淀川水系固有種が多いことで知られています。
- 現在では、河川改修により枚方大橋付近まで湛水化され、氾濫原は消失しました。
- しかし、氾濫原の代替地としてワンドが魚類のすみかとなっています。



大阪市にある城北ワンド

## 魚類調査の目的

- 1970年代、淀川では漁業は衰退傾向でしたが、遊漁は盛んに行われていました。
- 淀川大堰建設（1983年完成）等の大規模な河川改修により魚類の生息場の消失の恐れがあるとして、影響予測および資源保護の目的で1972年より魚類調査を開始しました。
- 淀川大堰完成後も10年に一度の頻度で調査を行っており、淀川の生物多様性保全のための基礎データとして役立てています。



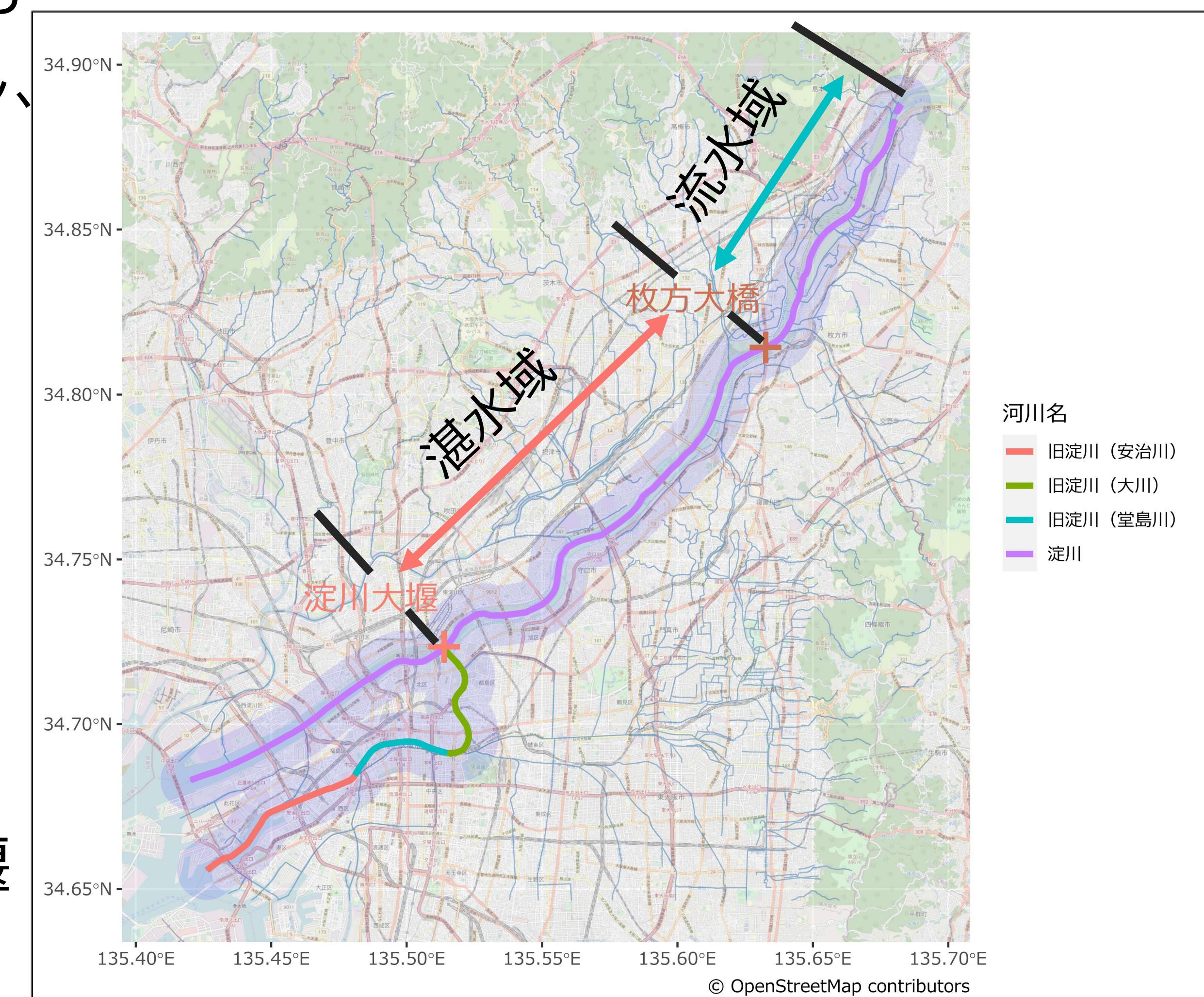
# 魚類相の調査と情報収集

## 希少種・外来種～普通種のモニタリング

- 私達の数十年にわたる魚類調査の蓄積からは、往時の淀川の姿を知ることが出来ます。さらには、淀川の生物多様性の現状を過去と比較し、その変遷を明らかにすることができます。
- 私達生物多様性センターは、他機関が実施した調査も含めて情報収集し、整理・分析して、おおさかの生物多様性をめぐる諸課題の見える化に取り組んでいます。

### 本企画展で用いた調査データ・情報整理方法

- 1960年～2023年に作成/出版された論文および報告書65報から魚類調査結果を抜粋し、共通仕様のデータとして整理しました。
- 調査体制が整備された1970年代以降を対象に、データを10年単位でまとめました。
- 地図等から調査地を判読して位置座標を割り出し、データを約1km四方のメッシュ(基準地域メッシュ)ごとに集計しました。
- 三川合流から枚方大橋までの比較的水の流れのある地域(流水域)と、下流の淀川大堰によってせき止められ、水が流れづらい地域(湛水域)の調査結果を示しています。



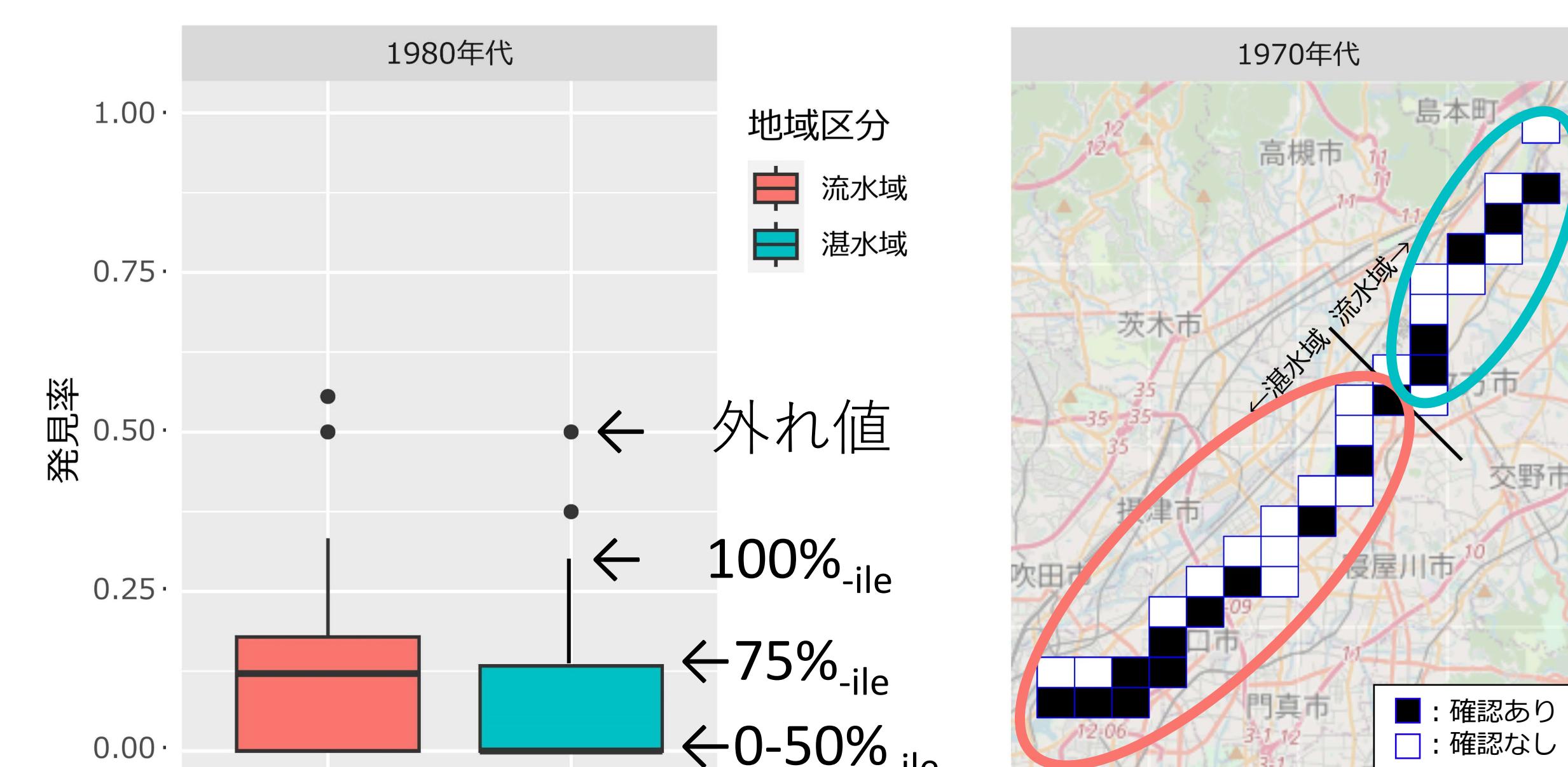
淀川と、枚方大橋・淀川大堰の位置図  
※ 背景地図は全てOpenStreetMapを使用しました

### 地図やグラフの見方

- 地図には年代ごとに注目する魚種が最低1回は見つかったメッシュを黒、1回も見つかなかったメッシュを白で示しました。
- メッシュごと・年代ごとに以下の割合を計算し、これを「発見率」と定義しました。

発見率 = 対象種を発見した調査数 ÷ 総調査数

- 箱ひげ図は発見率の分布を四分位値(データを小さい順に並べて0, 25, 50, 75, 100%分位の値)で示しています。



発見率の箱ひげ図の例

分布図の例



# かけがえのない自然である淀川の魚類を未来に受け継いでいくために

- 大阪府の生物多様性ホットスポットである淀川は、多くの魚類の生息の場になるとともに、これまで流域の住民に様々な生態系の恵みを与えてきました。
- 魚類をはじめとした生物多様性を守ることは、人間が淀川からの恵みを得て、持続的で豊かな生活を営むために大切です。

## 外来生物を「入れない・捨てない・拡げない」

- ある生物が自然に分布していない地域に入って外来生物となつたとき、生態系等にどのような悪影響を及ぼすかは予測できません。
- 外来生物を淀川に入れないと、それでももし入ってしまったら増やさないことが大切です。



淀川のワンドで採れた魚  
大半が特定外来生物のオオクチバスとブルーギル  
(2005/4/28)



特定外来生物ボタンウキクサ  
に覆われた淀川のワンド  
(2005/11/10)

## 希少な動植物を傷つけない、採らない

- 淀川には全国でも限られた場所にしかいない動植物や絶滅のおそれがある生き物が生息・生育しています。
- これらの動植物の生息・生育場所を荒らしたり、採ったりしないようにしましょう。



イタセンパラ



ヨドゼゼラ

## 淀川の自然の成り立ちを学び、見て、理解する

- 淀川は大雨が降ったりすると、河川敷に水があふれて立ち入りできなくなります。
- しかし、そのことは魚が住むワンドをきれいにしたり魚が新しい生息場所に移動するのに役立っています。
- 淀川の自然を守っていくために、私たちがどんな取組みをしていかないといけないのかを考えてみましょう。



淀川の増水 (2013/11/16)



増水でできた河川敷のたまり  
(淀川上流、木津川にて)



新たにできたたまり  
で泳ぐミナミメダカ